

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度						
組織デザイン構築委員会概要						
	副理事長	西崎 肇志	委員長	三木 淳史	副委員長	日岡 康雄
事業計画名	効果的な広報戦略事業（3月）					
本事業に至る背景並びに現状分析（解決したい問題）	組織価値を高め、JCI小豆島の運動を地域に波及させる為には運動意義や魅力を効果的に発信し、多くの人に共感を得られるような広報戦略が必要です。					
事業目的	SNSの効果的な広報の方法を学ぶ					
申請該当事業	他－1 会員研修事業					
事業内容	研修事業の開催					
対象者（誰に向けて）	JCI小豆島正会員24名					
その理由	JCI小豆島の発信力を高めるため					
手法（どんな事業をするか）	講師を招き、研修事業を行う。					
その理由	専門性のある有識者に研修をいただくことで効果が高まるため					
パートナー（ステークホルダー）	講師					
その理由	専門性の高い方を招く事でより高い効果を得るため					
本事業で得られる効果	SNSの効果的な発信方法を学ぶことにより、JCI小豆島の発信力が高まる。					

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度						
組織デザイン構築委員会概要						
	副理事長	西崎 肇志	委員長	三木 淳史	副委員長	日岡 康雄
事業計画名	わんぱく相撲小豆島場所（6月）					
本事業に至る背景並びに現状分析（解決したい問題）	2020年度は新型コロナウイルスの影響で、外出自粛など多くの子供たちが今まで当たり前に来ていたことをすることが難しい状況でした。2021年度は、我々がこれまで培ってきた経験を活かし、改めて国技である相撲を通じ、子供たちに礼節、勝負の厳しさを肌で感じてもらうと同時に、感謝や相手を思いやる気持ちを育む事に寄与していくことが必要だと考えます。					
事業目的	子供たちに相撲を通じて、礼節、感謝、相手を思いやる気持ちを学ぶ機会を提供する。社会課題を学ぶ場を提供する。					
申請該当事業	公1-1青少年育成体験活動事業					
事業内容	わんぱく相撲小豆島場所の開催					
対象者（誰に向けて）	小豆郡内小学生					
その理由	若いうちに経験を積み成長してもらいたいため					
手法（どんな事業をするか）	コロナウイルス感染対策を行いわんぱく相撲小豆島場所の開催 <コロナウイルスの状況により開催の有無の判断を行う>					
その理由	JCI東京が主催するわんぱく相撲全国大会の予選のため相撲を通じて子供たちが礼節、感謝、相手を思いやる気持ちを学べるため					
パートナー（ステークホルダー）	①小豆島相撲連盟 香川県相撲連盟 ②公益財団法人エネルギー文化・スポーツ財団 ③小豆島町 土庄町 小豆島町教育委員会 土庄町教育委員会 ④琴勇輝一巖氏 琴勇輝後援会 ⑤協賛依頼企業 ⑥看護師					
その理由	①相撲に精通している団体からの運営面での支援のため ②補助金申請のため ③広報、備品借用依頼のため ④出演 ⑤協賛金の協力 ⑥怪我や体調不良に備える為					
本事業で得られる効果	子供たちが相撲を通じて礼節、感謝、相手を思いやる気持ちを学ぶことができる。					

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度						
組織デザイン構築委員会概要						
	副理事長	西崎 肇志	委員長	三木 淳史	副委員長	日岡 康雄
事業計画名	個と組織の幸せな関係を考える事業（10月）					
本事業に至る背景並びに現状分析（解決したい問題）	コロナ禍での働き方として兼業、副業、フリーランスなどの多様化により、組織と個の関わり方が変化してきている。（働き方に関して今と昔を比べてみても、意味や目的の変化）それに伴い、組織も変化してきている。今後更なる変化を見据えた、組織の在り方を模索する必要があると考えます。					
事業目的	個と組織の在り方を考える機会の提供					
申請該当事業	他－1 会員研修事業					
事業内容	研修事業の開催					
対象者（誰に向けて）	J C I 小豆島正会員 24名					
その理由	対内事業のため					
手法（どんな事業をするか）	講師を招き、研修事業を行う。					
その理由	専門性のある有識者に研修をいただくことで効果を高める。					
パートナー（ステークホルダー）	講師					
その理由	専門性の高い方を招く事でより高い効果を得るため					
本事業で得られる効果	今後の組織の在り方のヒントを得る					

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度						
組織デザイン構築委員会概要						
	副理事長	西崎 肇志	委員長	三木 淳史	副委員長	日岡 康雄
事業計画名	会員の行動計画検証発信による組織ブランディング事業（1月～12月）					
本事業に至る背景並びに現状分析（解決したい問題）	地域の将来を担う我々は、率先して地域の為に行動できる組織でなくてはなりません。青年会議所の活動において、能動的、積極的に取り組んでいるメンバーも多くいますが、個人差が多少あります。全メンバーが目的意識を持ち、能動的に行動できる人材になる必要があります。全メンバーの行動がより良い方向に変化する事で、小豆島青年会議所としての組織価値も高まると考えます。					
事業目的	自己成長の意識をもって行動する（青年会議所活動への参加意識の向上も含む）					
申請該当事業	公2－3 情報発信事業					
事業内容	各メンバーが作成した行動指針を発信する。					
対象者（誰に向けて）	J C I 小豆島正会員 24名、小豆島島民をはじめとする日本、世界のインターネット・SNS ユーザー					
その理由	より多くの人に知っていただき、全メンバーに自己成長の意識をより高くしていただくため					
手法（どんな事業をするか）	年頭に全メンバーが行動指針を作成・発信し、年末に検証結果を発信する。					
その理由	発信することで自分の行動指針を意識するようになるため					
パートナー（ステークホルダー）	(株) パオ・フィール					
その理由	ホームページの保守管理を委託しているため					
本事業で得られる効果	メンバーの行動に目的意識が高い状態になる J C I 小豆島の組織価値が高まる。					

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度

組織デザイン構築委員会概要

	副理事長	西崎 肇志	委員長	三木 淳史	副委員長	日岡 康雄
事業計画名	ホームページ・SNSの運営（通年）					
本事業に至る背景 並びに現状分析 (解決したい問題)	JCI小豆島は、運動内容等をホームページ、SNSを使って発信してきました。しかし、ホームページの閲覧数、Instagram、Facebookのフォロワー数は伸び悩んでいる状況があり発信が思うようにできていないと考えます。我々の運動を広めるには有効な情報を効果的に発信していく必要があります。					
事業目的	JCI小豆島の運動内容を多くの方に知ってもらい、組織価値の向上をはかる。					
申請該当事業	公2-3 情報発信事業					
事業内容	ホームページ・SNSの運営					
対象者(誰に向けて)	小豆島島民をはじめとする日本、世界のインターネット・SNSユーザー					
その理由	インターネットを利用し情報を発信するため					
手法 (どんな事業をするか)	年間を通してJCI小豆島のホームページの更新、Instagram、Facebookでの情報発信					
その理由	インターネットが普及し、情報発信の媒体として主流になっているため					
パートナー (ステークホルダー)	(株)パオ・フィール					
その理由	ホームページの保守管理を委託しているため					
本事業で得られる効果	多くの方にJCI小豆島の運動を知ってもらえる。 JCI小豆島の組織価値の向上。					